

校長室だより(No.26)

令和3年10月22日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

情報モラル教育

問題提議の話を聞きました



グループで話し合います



自分の考えを発表します



文部科学省の2020年度の問題行動・不登校調査で、児童生徒間のネットを使ったいじめ件数が過去最多になりました。いじめの総数は減っているのですがネットを使ってのいじめは増えている状況です。

GIGAスクール構想によりすべての小中学生に1人1台の情報端末が配備され、子どもたち同士がネットでやりとりする機会は大きく増えたことが背景にあると考えられます。「(配備されたタブレットPCであっても)子どもたち同士のネット上の会話は、大人の目が届かないところがあります。トラブルが起こった時に対応できなければ(子どもたちの関係は)あっという間にすさんでしまう」と危惧する意見も多くあります。(朝日新聞)

東京都町田市で昨年11月におこった小学校6年生児童の自殺は記憶に新しいところです。学校で配られたタブレット端末で「うざい」などの悪口が書かれていた、と両親は訴えています。北海道旭川市で行方不明になり3月に遺体で見つかった中学校2年生女子生徒は画像のやり取りを巡って友だちとトラブルになっていたとされています。

10月21日(木)に実施いたしました情報モラルに関する講演会の中でも講師の先生からお話がありましたが、子どもたちはネット上に「友だちの悪口を書いてはいけない」SNS等での「仲間外れをすることは良くない」ことを頭ではよく理解しています。それでもいじめを止められなかったり、傍観者になったりしてしまうのは、自分も加担しなければ、また、傍観者にならなければ、今度は自分がいじめられるというジレンマがあるからというのが大きな理由です。これまでの「情報モラル」は道徳的な心情面を大切に教えていることが多かったのですが、現実には、教えられたようには行動できない場面が多くあります。子どもたちの本音といかに向き合うか、ジレンマにどう対処させるか、小さなことから見過ごさずに丁寧に子どもたち自身に考えさせる必要があると考えます。